

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET	13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援を発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方として理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を具体的には、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

15回出席を原則とし、1回の欠席で5点減点とする。

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）		13854	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
松井 敦	選択	2	中学校教諭中学校教頭小学校校長		

授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

授業の概要

学習指導要領が改訂され、教育に求められる課題も変わってきている。「主体的・対話的で深い学び」「カリキュラムマネジメント」をキーワードに教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。授業のまとめとして、「総合的な学習（探求）の時間」の単元計画の作成に取り組む。

授業計画

- 1 ☆はじめに・教育課程と総合学習
 - ・「教育課程」とは？・標準授業時数・「学習指導要領」とは？・「学習指導要領」の法的根拠・教育課程は、誰が決めるのか？・「総合的な学習（探求）の時間」の創設
- 2 ☆新学習指導要領のめざすもの
 - ・学習指導要領の改訂・新学習指導要領のめざすもの（改訂にこめられた願い）・新学習指導要領が示す具体的な改定のポイント
- 3 ☆「主体的・対話的で深い学び」とは
 - ・「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善・「主体的・対話的で深い学び」を促進する教師力・「カリキュラムマネジメント」の視点から
- 4 ☆「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の具体を考える①
 - ・宿泊行事について企画する・「教員の連携、複数の教科等の連携」を意識して
- 5 ☆「主体的・対話的で深い学び」の教育活動の具体を考える②
 - ・宿泊行事について企画する・「カリキュラムマネジメント」の視点から
- 6 ☆先進校の実践に学ぶ
- 7 ☆小中一貫教育と教育課程
 - ・学校現場の課題の多様化と複雑化・小中一貫教育の大目的・小中一貫教育の成果
- 8 ☆小中連携・小中高連携
 - ・先進校の実践に学ぶ
- 9 ☆中学校学習指導要領 外国語科の改訂のポイント
 - ・先進校の実践に学ぶ
- 10 ☆総合的な学習（探求）の時間～学習指導要領改訂のポイント～
 - ・「総合的な学習の時間」の経緯

- 11 ☆総合的な学習の時間の目標
 - ・総合的な学習の時間とカリキュラム・マネジメント
- 12 ☆目標を実現するにふさわしい探究課題
 - ・「中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編」を読む・「総合的な探究の時間」でぶつかる壁・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」より
- 13 ☆総合的な学習の時間の単元計画を考える
 - ・学校における実践事例・単元計画の具体例・探究的な学習の指導のポイント
- 14 ☆研究開発学校制度・単元計画を考える
 - ・研究開発学校制度について・総合的な学習の時間の単元計画を考える
- 15 ☆まとめテスト

授業の方法

毎回配布するレジュメ・資料を中心にパワーポイントを使って講義を進める。また視覚教材を活用しながら学習を深める。講義を主とするが、グループワークなども取り入れる。

準備学修

中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）を読んでおく

課題・評価方法、その他

平常点（70%）、定期試験（30%）

欠席について

やむを得ず欠席する場合には、事前、事後に届け出る

テキスト

中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）最新版

参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小）文部科学省編 教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中）文部科学省編 教育出版
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（高）文部科学省編 教育出版

留意事項

毎回の授業のレジュメと資料をファイルに整理し、最後に提出。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中高)			13853	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	阪神淡路大震災学校避難所支援市教委和教室指導主事公開異人館副館長文科省海外派遣教員			

授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、こども園・学校と地域との連携の取り組みの中から全ての学校種の在り方や危機管理について考察する。

授業計画

- 1 はじめに、公教育について
- 2 教育行政と公教育の仕組み
- 3 教育改革の歴史概要
- 4 教職教養のまとめ、教育時事
- 5 現代の学校で学ぶもの
- 6 学校経営と教師力
- 7 学校と地域の連携と協働Ⅰ
- 8 学校と地域の連携と協働Ⅱ
- 9 学校力と課外活動(部活動)
- 10 安全教育、安全管理についての取り組み
- 11 学級経営における効果的な指導法
- 12 学校が災害時に果たす組織的な役割
- 13 学校における危機管理のあり方
- 14 開かれた学校づくり、人権感覚の醸成法
- 15 教育経営の基本(保護者対応と姿勢)・まとめ

授業の方法

最初に配布したレジメを中心に授業を進める。レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

準備学修

Webで世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に

調べる。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

テキスト

なし

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。
授業中に配布したレジメ等の資料を整理しファイリングしておくこと

資格科目〈キッズ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

『教育相談ワークブック』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著 北樹出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a	17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
浅井 由美	必修	2			

授業の到達目標

卒業研究計画書を作成する。卒業研究全体の3分の1を完成させる。研究する視点や態度、論理的に考え書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

自分の研究テーマに基づいて研究を進める。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、研究を深める。

授業計画

- 1 卒業研究テーマの確認
- 2 卒業研究の方法等の確認
- 3 卒業研究の執筆手順
- 4 卒業研究中間報告 1
- 5 卒業研究中間報告 2
- 6 卒業研究中間報告 3
- 7 卒業研究中間報告 4
- 8 卒業研究中間報告 5
- 9 卒業研究中間報告 6
- 10 卒業研究中間報告 7
- 11 卒業研究中間報告 8
- 12 卒業研究中間報告 9
- 13 卒業研究中間報告 10
- 14 今後の研究の進め方
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとりいれる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b	17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員		

授業の到達目標

漠然とした研究のテーマを先行文献や資料を読み深めることで、具現化する。仲間の研究過程を聞き合い、コミュニケーション能力も身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

参考図書、先行文献、関連資料の収集から始めてそれらの考え方の類似、相違を模索しながら、発見と納得による研究を進める。

授業計画

- 1 テーマについて
- 2 先行文献について知る
- 3 先行文献の感想を発表し合う 1
- 4 先行文献の感想を発表し合う 2
- 5 問題と目的を明らかにする
- 6 問題と目的について討議する 1
- 7 問題と目的について討議する 2
- 8 問題と目的について討議する 3
- 9 問題と目的について討議する 4
- 10 研究の方法を知る
- 11 個々の研究方法を討議する 1
- 12 個々の研究方法を討議する 2
- 13 個々の研究方法を討議する 3
- 14 個々の研究方法を討議する 4
- 15 卒業研究のアウトラインを完成させる

授業の方法

学生相互で討議しながら、互いの考え方を客観的に捉えることができるようにする。

準備学修

テーマに関連するニュースや資料を、出典を明確にして収集すること。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

必要に応じて指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習IV	a		17113	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

授業の到達目標

卒業研究を完成させる。研究する視点や態度と論理的に書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

授業の概要

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 演習と卒業研究の進め方
- 2 研究発表と質疑応答 1
- 3 研究発表と質疑応答 2
- 4 研究発表と質疑応答 3
- 5 研究発表と質疑応答 4
- 6 研究発表と質疑応答 5
- 7 研究発表と質疑応答 6
- 8 研究発表と質疑応答 7
- 9 研究発表と質疑応答 8
- 10 研究発表と質疑応答 9
- 11 研究発表と質疑応答 10
- 12 卒業研究の要約
- 13 卒業研究の修正
- 14 卒業研究の発表
- 15 まとめ

授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。
平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき2点減点する。

テキスト

なし。

参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習IV	b		17113	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2				

授業の到達目標

自分のこだわり・気がかりを大切にテーマを決める。そのテーマにそって研究を続けながら文章表現の力をつける。それらの成果を卒業研究としてまとめる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）A（自律）を育成する。

授業の概要

個々のテーマに即してディスカッションを多く採り入れて指導する。さらに、正確な情報を選択、採用する資質能力を養い卒業研究を完成させる。

授業計画

- 1 卒業研究の概略説明
- 2 卒業研究の計画、作成の確認
- 3 卒業研究の報告と討議 1
- 4 卒業研究の報告と討議 2
- 5 卒業研究の報告と討議 3
- 6 卒業研究の報告と討議 4
- 7 卒業研究の報告と討議 5
- 8 卒業研究の報告と討議 6
- 9 卒業研究の報告と討議 7
- 10 卒業研究の報告と討議 8
- 11 卒業研究の報告と討議 9
- 12 論文推敲 1
- 13 論文推敲 2
- 14 最終報告と討議
- 15 まとめ

授業の方法

学生同士で論文の方向性や課題を発表し合い、コミュニケーション能力を高める手立てとする。

準備学修

選考文献を多く収集し、熟読すること

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

個々に応じて指示する

参考図書

個々に応じて推薦する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。特に以下の点を重視する。

1 認知機能の発達 2 自己と他者との関係の在り方と心理的発達 3 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 4 発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 5 高齢者の心理
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)、I(知性)、E(倫理)を養う。

授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にとつての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する。さらに特に以下の点を重視する。

1 認知機能の発達 2 自己と他者との関係の在り方と心理的発達 3 誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達 4 発達障害等非定型発達についての基礎的な知識及び考え方 5 高齢者の心理

授業計画

- 1 精神機能を発生的に把握するという事 生物としての発生
- 2 精神機能を発生的に把握するという事 遺伝と環境
- 3 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
- 4 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
- 5 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)・運動の発達
- 6 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)・言語の発達
- 7 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)・認知の発達
- 8 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
- 9 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降) 学習活動の在り方
- 10 初期経験と発達:野生児の例から
- 11 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
- 12 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達

- 13 発達研究における生態学的視点
- 14 発達における障害の位置づけと診断・療育
- 15 人格としての生涯発達およびまとめ
- 16

授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

欠席は1回につき5点の減点とする

テキスト

必要な場合授業時に指示する

参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館
川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達-新しい発達心理学への招待-』 福村出版 2010

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情・人格心理学			17311	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学の様々な理論、人格の形成要因や発達過程、感情が行動におよぼす影響、心の病などの視点から人格とは何かを学び、人間の個性を理解することで人間の心に関する理解を深める。「感情に関する理論及び感情喚起の機序」、「感情が行動に及ぼす影響」、「人格の概念及び形成過程」、「人格の類型、特性等」について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)を学ぶ。

授業の概要

人間の行動の仕方には個人差があることから人格という言葉が生まれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、人格の形成過程や人格理論、さらには不適応の問題についても学び、自己と他者のより深い理解をめざす。

授業計画

- 1 はじめに:人格の定義と歴史
- 2 人格を理解する観点と理論Ⅰ:理論
- 3 人格を理解する観点と理論Ⅱ:類型論
- 4 人格を理解する観点と理論Ⅲ:特性論
- 5 人格の発達Ⅰ:人格形成の要因
- 6 人格の発達Ⅱ:ライフサイクル
- 7 人格と関係性
- 8 人間関係と性格(適性)
- 9 適性とやる気
- 10 適応と不適応
- 11 パーソナリティと不適応
- 12 交流分析とTEGⅡ他心理査定
- 13 感情とは何かⅠ-感情に関する理論および感情喚起の機序
- 14 感情とは何かⅡ-感情の進化と行動に及ぼす影響
- 15 総括

授業の方法

講義とグループワークを中心とする。また、適宜心理検査を紹介する。

準備学修

授業後の復習が必要である。

課題・評価方法、その他

定期試験(50%)、小レポート(20%)、出席状況(15%)、授業後の感想レポート(15%)

欠席について

欠席が5回以上で不合格とする。

テキスト

適宜プリント資料として配布する。

参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』サイエンス社
大山泰宏・佐々木玲仁『感情・人格心理学』NHK出版

留意事項

「授業」は授業者と学生の相互の協力のもとに成立するものであるから、学生諸君は要望、意見を忌憚なく述べて欲しい。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論		17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士		

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

- 1 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
- 2 子ども文化の意義、定義とその構造
- 3 子どもを取り巻く生活環境の変化
- 4 子どもを取り巻く生活環境について
- 5 現代の子どもたちの遊びと生活
- 6 集団遊びの重要性
- 7 異年齢集団の遊びの重要性
- 8 自然とのかかわりについて(教室を出ての実験)
- 9 自然の中での遊びの重要性
- 10 伝承遊びについて
- 11 児童文化財について
- 12 1年を通して、季節の子ども文化と遊び
- 13 季節の遊びについて(お正月)
- 14 子どもを取り巻く「ひと」「もの」「こと」
- 15 まとめ・定期試験

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。平常点50%、定期試験50%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
 児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
 子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	PC	17411	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援を発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方として理解する。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。
 このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を具体的には、教育現場において生じる問題や背景、また、心理社会的課題及び必要な支援心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

欠席1回につき5点減点とする

テキスト

必要に応じて指示する。

参考図書

授業で指示する

留意事項

マスクミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職小	17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員		

授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健全な成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

授業計画

- 1 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
- 2 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
- 3 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバークの理論と方法
- 4 幼児期から青年期において、社会性の発達
- 5 幼児期から青年期における現代の発達課題
- 6 認知発達、認知機構の変遷
- 7 主体的な学びの開発と体系化
- 8 主体的、対話的で深い学びの実践例
- 9 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
- 10 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
- 11 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
- 12 学習成果の可視化
- 13 主体的な学習、思考力を育む学習集団
- 14 発達障害の理解と支援
- 15 まとめと振り返り

授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

『教育相談ワークブック』桜井美加・齋藤ユリ・森平直子 著 北樹出版

参考図書

授業中に紹介する

留意事項

マスクなどでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
地域子育て支援 I		17502	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士		

授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割が明確化され、幼稚園や保育所で子育て支援について様々な場や対象に即した支援を行っている。その中で地域の子育て家庭に対する支援について、実践を通し具体的に理解し、積極的に取り組んでいける保育者を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養う。

授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園、保育所、地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を目指している学生が何故子育て支援が必要なのか、親子が求める子育て支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践を積極的に体験する。

授業計画

- 1 子育て支援とは何か。(DVD視聴「子育て支援とは?」)
- 2 地域子育て支援事業拠点における支援
- 3 地域子育て支援の取り組みへの参加(1)
- 4 地域子育て支援の取り組みへの参加(2)
- 5 地域子育て支援の取り組みへの参加(3)
- 6 地域子育て支援の取り組みへの参加(4)
- 7 地域子育て支援の取り組みへの参加(5)
- 8 振り返りとまとめ。

授業の方法

演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法、その他

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著
地域で子育て 渡辺頼一郎編著
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

受講者は子育て支援に関心のあるもの。本学が行う子育て支援事業「海星子育てひろば」に参加し、実践を行い子育て支援の理解を深め、また、保育技術の向上を図る。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については、教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒障害児・知的障害児教育			17539	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、公認心理師、学校心理士SV、公立小教員			

授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じてきた要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

授業計画

- 1 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
- 2 保育士・教師としてできる個別配慮
- 3 介助者が加わったときの役割
- 4 室内トラブルへの対応その1 解決のポイント
- 5 室内トラブルへの対応その2 立ち歩きやエスケープ
- 6 室内トラブルへの対応その3 人間関係のトラブル
- 7 室内トラブルへの対応その4 パニックを起こしたときの対処
- 8 保護者とともに子どもを育てるその1 保護者面談の進め方
- 9 保護者とともに子どもを育てるその2 親から学ぶ支援のあり方
- 10 周りの子どもやその保護者への対応その1 周辺の子ども
- 11 周りの子どもやその保護者への対応その2 保護者に対して
- 12 チーム支援その1 確かな情報を共有する
- 13 チーム支援その2 実態の把握方法
- 14 チーム支援その3 組織的支援の進め方
- 15 学校・園に合ったチェックリストを作成
- 16

授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

課題・評価方法、その他

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

参考図書

必要に応じて紹介する。

留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
福祉心理学			17543	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2	認知症専門病院の心理師、児童養護施設・児童心理治療施設の主任セラピスト、臨床心理士・公認心理師			

授業の到達目標

- ・福祉心理学関連の法・制度・用語を理解できる。
- ・福祉現場において生じる問題及びその背景について理解できる。
- ・福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援について理解できる。
- ・虐待についての基本的知識を身につける。
- ・このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのS（奉仕）とE（倫理）を養う。

授業の概要

福祉心理学の分野は幅広く支援対象者もさまざまであり、必要となる支援内容も多岐にわたる。しかし人の安全・安心を保障し、安定した生活へと支援していくという点では共通している。このクラスでは福祉領域における心理臨床について、まずは福祉対象者への心理支援の必要性とあり方を総論的に学び、その後福祉心理学的心理支援の実践について実践内容を中心に学ぶ。その中で虐待をはじめとする福祉現場における心理社会的課題や必要な支援、さらには福祉現場で生じる問題とその背景についても理解し、実践的知識を身につける。

授業計画

- 1 第1章 社会福祉の展開と心理支援
- 2 第2章 総論：生活を支える心理支援
- 3 第3章 暴力被害者への心理支援
- 4 第4章 高齢者への心理支援
- 5 第5章 障害・疾病のある人への心理支援
- 6 第6章 生活困窮・貧困者への心理支援
- 7 第7章 児童虐待への心理支援の実践
- 8 第8章 子どもと親への心理支援の実践
- 9 第9章 認知症高齢者の心理支援の実践
- 10 第10章 ひきこもり・自殺予防の心理支援の実践
- 11 第11章 精神障害者への心理支援の実践
- 12 第12章 家族・職員への心理支援の実践
- 13 第13章 福祉分野での多職種協働と心理職の位置づけ
- 14 第14章 多職種協働実践事例報告
- 15 福祉心理学のまとめ
- 16

授業の方法

授業は基本的に各章のテキストの内容に沿って講義形式で進める。福祉現場への理解を深めるため、適宜レジュメを配布し、実践的知識の習得を目指す。

準備学修

webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点30%、定期試験70%

欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出ること。

テキスト

野島一彦・繁樹算男 監修 中島健一 編 2018 公認心理師の基礎と実践⑩ 福祉心理学 遠見書房

留意事項

講義は基本的にテキストの各章の内容に沿って行う。テキストを購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
藤田 昌央	選択	2	公立小学校教員、教育委員会指導主事			

授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行い、実践する方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）、I（知性）の育成を目指す。

授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解したうえで、教科書教材の指導案の作成や模擬授業を通して、国語科の指導力を身に付ける。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、授業の見直しと到達目標の確認
- 2 指導要領と国語科の目標・内容(国語科で付けたい力)
- 3 国語科の学習計画、指導法と評価
- 4 知識及び技能①「言葉の特徴や使い方」
- 5 知識及び技能②「情報の扱い方」|「伝統的な言語文化」
- 6 知識及び技能③「書写」|「読書」
- 7 話すこと・聞くことの内容と指導
- 8 書くことの内容と指導
- 9 音読・朗読の指導
- 10 読むこと(説明的な文章)の指導
- 11 読むこと(文学的な文章)の指導
- 12 模擬授業(選択学年)
- 13 模擬授業(選択学年)
- 14 模擬授業(選択学年)
- 15 国語科におけるICT機器の活用(デジタル教科書及び教材の活用を含む)
- 16

授業の方法

発表やディスカッション、実際の指導を想定した模擬指導、模擬授

業を多く取り入れる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①毎時間のふりかえりとレポート(3回)の提出を求め、授業の中でフィードバックを行う。
- ②指導案と模擬授業について、批評とアドバイスをを行う。
- ③評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 国語編」東洋館出版
「国語四上かがやき」光村図書

参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

留意事項

出席と授業態度(模擬授業の準備やレポート等を含む)を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育(幼小)			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2				

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒を理解し、学習上又は生活上の困難を把握し、個別の教育的ニーズに対して、他の教職員・他職種・関係機関と連携しながら組織的に対応していくための支援方法を説明することができる。
この授業では、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、よりよい教育方法や支援のありかたについて理解する。このためには、ライフステージを見通した支援について学習する。また、障害種別ごとに障害特性の正確な理解について学ぶ。これらの基礎的な学習をふまえて、個別の教育ニーズに対応していくための支援方法について、検討していく。

授業計画

- 1 ライフステージを見通した支援について
- 2 障害の理解と支援
発達障害①について
- 3 障害の理解と支援
発達障害②について
- 4 障害の理解と支援
知的障害について
- 5 障害の理解と支援
言語障害について
- 6 障害の理解と支援
肢体不自由について
- 7 障害の理解と支援
聴覚障害について
- 8 障害の理解と支援
視覚障害について
- 9 障害の理解と支援
病弱について
- 10 障害の理解と支援
重症心身障害や医療的ケアについて
- 11 障害児保育の基本について

- 12 発達をめざしたさまざまな連携について
- 13 小学校との接続について
- 14 思春期・青年期にむけて
- 15 これからの障害児保育・教育について
- 16

授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

授業後に提出する課題60%
定期試験40%

欠席について

1回の欠席で5点減点とする。

テキスト

特別支援学級はじめての第一歩 坂本裕著

参考図書

適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習 (小)			17686	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小学校教員			

授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)の育成を目指す。

授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

授業計画

- 1 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
- 2 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
- 3 社会性や対人関係能力(職場、保護者・地域との人間関係の構築等)についての講義・グループ討議
- 4 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
- 5 保育計画案・学級経営案の作成
- 6 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
- 7 学校園現場の見学・調査①
- 8 学校園現場の見学・調査②
- 9 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
- 10 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
- 11 模擬保育・模擬授業と討議①
- 12 模擬保育・模擬授業と討議②
- 13 事例研究とロールプレイング①
- 14 事例研究とロールプレイング②
- 15 目指す教師像と自己課題の確認

授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職(幼・小)の各担当教員から提示する。

課題・評価方法、その他

- ①レポートや作品等の提出物については、担当教員が指導助言を行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

テキスト

必要に応じて指示する

参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレール館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導(幼稚園) I	教職幼		17691	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡邊 恵梨佳	選択	1				

授業の到達目標

幼児期の子どもの教育と幼稚園教諭の職務についての知識を身につける。その上で、教育実習の基本となる観察力や状況把握力を養い、実習での学びを深められるようにする。教育実習に向けて準備すべきことや心構えを学ぶ。実習記録や指導計画の作成をし、実践力を身につける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)の育成をめざす。

授業の概要

教育実習に向けての事前指導および実習後の振り返りを行う。1週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学ぶ。また、実習生の心得や遵守すべきことについて理解する。実習後の振り返りでは、子ども理解や幼稚園教諭の職務について理解を深めると共に、自らの課題を明確にし、資質向上をめざす。

授業計画

- 1 幼児教育・幼稚園教諭とは
- 2 教育実習の意義と目的、個人目的の設定
- 3 教育実習園の選択と決定
- 4 教育実習園の教育などの理解
- 5 教員に求められる資質
- 6 週間実習に向け、園への依頼の仕方
- 7 実習記録の取り方と記載について
- 8 実習記録の記載に際しての留意事項
- 9 実習に際しての具体的な留意事項
- 10 実習後について(礼状の作成など)
- 11 1週間実習を終えての成果や課題について協議①
- 12 1週間実習を終えての成果や課題について協議・発表②
- 13 実習記録について個人指導及び指導①
- 14 実習記録について個人指導及び指導②
- 15 実習記録について個人指導及び指導と3週間実習に向けての準備

授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、実習園から返却された実習記録や評価をもとに、自らの成果

と課題を明確にする。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①課題の提出を求め、授業内で評価と助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%で評価する。

欠席について

基本的に欠席は認められない。必ず全回出席すること。やむを得ず欠席する時は必ず事前に申し出ること。その場合のみ1回につき3点の減点とする。

テキスト

本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」
「あそびうた大全集200」永岡書店

参考図書

「保育とカリキュラム」ひかりのくに社
幼稚園教育指導資料「幼児の思いをつなぐ指導計画の作成と保育の展開」チャイルド社

留意事項

免許取得のための教育実習に向けた授業であることを十分心得ておくこと。
授業内で取り組む内容には、実習園へ提出する書類作成等も含まれる。そのため、提出期限を厳守すること。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的としている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

授業計画

- 1 オリエンテーション
- 2 特別支援教育の現状
- 3 視覚障害の理解と特別支援教育
- 4 聴覚障害の理解と特別支援教育
- 5 言語障害の理解と特別支援教育
- 6 知的障害の理解と特別支援教育
- 7 発達障害の理解と特別支援教育 1
- 8 発達障害の理解と特別支援教育 2
- 9 肢体不自由の理解と特別支援教育
- 10 それぞれの障害の理解と特別支援教育 1
- 11 それぞれの障害の理解と特別支援教育 2
- 12 特別支援教育の変遷
- 13 生涯発達支援について 1
- 14 生涯発達支援について 2
- 15 まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するかを考える時間を設ける。

準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

課題・評価方法、その他

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	1	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画

- 1 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
- 2 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 3 実習中の心得（勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物）
- 4 実習中の心得（学級経営、給食指導、休み時間）
- 5 児童や教職員との接し方
- 6 実習記録の書き方
- 7 学習指導と生徒指導
- 8 算数科模擬授業（低学年）
- 9 算数科模擬授業（高学年）
- 10 教育実習の成果と課題
- 11

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。

このクラスではKAISEIのI（知性）を養う。

授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学修する。

- 1 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
- 2 特別活動の4つの内容である「学級活動（ホームルーム）」「生徒会活動（児童会活動）」「クラブ活動（部活動）」「学校行事」について理解する。
- 3 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

授業計画

- 1 講義の進め方と概要を説明（オリエンテーション）
- 2 教育課程における特別活動の位置づけ
- 3 特別活動の歴史の変遷
- 4 ① 各校種における特別活動の内容と目標
② 特別活動の内容1「学級活動」について
- 5 特別活動の内容2「生徒会（児童会）活動」について
- 6 特別活動の内容3「学校行事」について
- 7 学校目標と特別活動の指導計画について
- 8 演習1 学級活動の指導計画を作成する。その1
- 9 演習2 学校行事の特別活動の指導計画を作成する。
- 10 演習3 事前に作成した計画に基づき校外学習を施設を利用して行う。
- 11 演習4 校外学習を終えて
- 12 演習5 学級活動の指導計画を作成する。その2
- 13 クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
- 14 特別活動と社会とのかかわり
- 15 まとめ

授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

課題・評価方法、その他

平常点50%、定期試験50%

欠席について

学内の規定に準じる。

テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説『特別活動編』」東山書店
必要に応じて資料を配付する。

参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（中高）			14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士S.V、臨床心理士、上級教育カウンセラー、教育委員会			

授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

授業計画

- 1 特別支援教育（インクルーシブ教育含む）の理念や制度
- 2 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
- 3 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
- 4 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
- 5 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
- 6 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
- 7 合理的配慮の必要性和生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
- 8 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
- 9 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
- 10 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
- 11 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
- 12 特別支援教育コーディネーター等との連携
- 13 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
- 14 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
- 15 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援
- 16 定期試験

授業の方法

講義、発表とワークショップ

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法、その他

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

欠席について

1回の欠席で5点減点とする

テキスト

特別支援学級はじめての第一歩 坂本裕著

参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）

留意事項

必要な場合授業時に指示する

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと